

# 進路だより

令和4年10月7日(金)

福井県立盲学校進路指導部

進路指導部では、本年度も皆さんが自分に適した進路選択・決定を行えるよう様々な進路行事を実施します。また、外部関係機関と連携を図り、みなさんに必要な情報の収集、進路体験活動の場の提供に努めていきたいと考えています。御要望等があれば、進路指導部・担任までどしどしお寄せください。今回の進路だよりでは、前期に実施した進路関連行事や学習、卒業生の様子、啓発活動等についてお知らせします。進路を考える資料としてお役立てください。

## 令和4年度 進路関連行事（対象／期間）

### 【全学部】

5月 進路希望調査（生徒・保護者）

6月 面談週間（生徒・保護者）

### 【幼・小学部】

8月 幼小のつどい（幼児・児童・保護者）

### 【中学部】

6月 高等部への進学説明会（3年生・保護者）

10月 進路体験実習（希望者）、進路講演会

2月 本校入学者選考（3年生）

### 【普通科】

7・9月 現場実習（3年生）

8月 大学等オープンスクール（希望者）

10月 進路講演会

11月 現場実習（3年生）

### 【理療科】

5月 ハローワーク求職登録（3年生）

6月 進路講演会

8月 職場見学実習（希望者／3～5日間）

9月 職場見学、理療実習

11・1月 あはき師国家試験模試（3年生）

2月 あはき師国家試験（3年生）

3月 あはき師国家試験合格発表、地域理療校外実習（3年生）



## 幼小のつどい

幼・小学部長

8月3日（水）、幼児児童とその保護者、教員の交流を図り、生活・福祉等に関する情報を共有することを目的とした「幼小のつどい」を実施しました。前半は、好きな曲に合わせて楽器を鳴らしたり身体を動かしたり、ソーシャルディスタンスに気を付けながらの音楽活動でしたが、皆で笑顔いっぱい楽しむことができました。後半は、保護者と教員で懇談の時間をもちました。始めにお子さんの見え方を再現したシミュレーションレンズを着けて、文字の読み書き、おもちゃの操作、校内歩行や車椅子移動等を体験していただきました。見づらさ・大変さを体感するとともに、物の提示方法や位置、文字や絵の大きさ・色・コントラスト等、見え方に応じた配慮点が分かり、今後お子さんに関わる際の参考になったとの感想が聞かれました。その後休日の過ごし方、幼児が楽しめる遊び場等を紹介し合いました。幼少期から家族と地域に出掛け、社会資源を有効活用していく重要性を改めて感じました。



## 家庭・関係機関との連携

幼稚部3歳児担任

今年入学した幼児は、本校幼稚部と併用して児童発達支援の2事業所を利用しています。医療的ケアを受けているお子さんで、日々の体調管理が大切であることから、保護者や事業所の方と送迎時に話をし、連絡帳を通して、丁寧に情報交換を行っています。学校では、健康や睡眠の状態など家庭での様子を踏まえて、休憩時間を配慮したり、必要に応じて吸引を行ったりしながら活動しています。下校時には保護者からの話を含めて学校での様子を、放課後に利用する事業所の職員さんに伝えています。特に、水分や食事摂取量は欠かせない情報です。事業所と学校を互いに訪れて実際に見学し、各々の様子を知る機会も設けています。今後も、家庭や関係する福祉・医療機関と連携を密にしながら、幼児が健康に充実した日々を過ごせるよう支援していきたいと思えます。

## 中学部 進学説明会

### 高等部への進学説明会

中普部長

6月24日（金）高等部への進学説明会を開催し、中学部3年生とその保護者に、高等部普通科及び保健医療科の教育課程、高等部入学者選考について説明を行いました。各担当者からの説明を真剣に聞いている姿がとても印象的で、この説明会を機に、自己実現に向けた確かな歩みをスタートしてくれたものと確信しています。保護者の皆様、今後も入学者選考に向けての様々な活動が予定されています。担任と進路指導部を中心として教員の連携を密にし、進路選択に向けた支援を行っていきますので、御家庭においても、お子様のサポートをよろしく願います。



### 進学説明会に参加して

中学部3年 生徒

説明会を聞いて、本格的に進路について考えなければいけないと実感しました。今回初めて知ったことがいくつもありました。

一つめは、普通科の中でもコースが分かれていることです。最初は、普通科一つだけだと思っていましたが、自分に合ったコースを選ぶことができるので、少し気持ちが楽になりました。

二つめは、そのコースに行くと、今後の進路が変わってくるということです。自分に合ったコースに行けば、自分に合った仕事先も選択できるということが分かったので、よく考えてコース選びをしないといけないなと感じました。どのコースを選ぶにしても、まずは日頃の学習にきちんと取り組まないといけません。そして、自分に合ったコースに行くためにも、入試に合格しなければいけないという重大なミッションがあるので、これからさらに頑張ろうと思います。



## 普通科 現場実習

はあもにい永平寺 7月25日(月) 26日(火)

生活介護事業所オアシス 7月28日(木)

ライフカレッジあけぼの 9月5日(月) 6日(火)

普通科3年 生徒・担任

夏休みに現場実習に行きました。はあもにい永平寺とライフカレッジあけぼのは、ふだんから施設利用をされていて、また今回が3回目の実習ということもあり、教員は巡回のみでした。一日を通して施設職員の方と活動しました。制作や作業に取り組んだり、食事をしたり、オンライン交流（はあもにい）をしたり、入浴体験（あけぼの）をしたりしました。笑顔も見せ、落ち着いて過ごしていました。オアシスでは、静かなゆったりとしたフロアで、引率者と一緒に過ごしました。オアシスは2回目なので、まだ緊張した様子で周りをよく見ていました。午後からは、海の中の生き物を制作し、他の利用者さんと海の中にいるような感じを楽しみました。卒業後に利用する予定施設での実習は、お互いのことを知る良い機会となりました。

## 理療科 進路講演会

6月23日、看護師の西川さんを講師にお招きし、進路講演会を開催しました。西川さんは看護師としてお勤めの途中で網膜色素変性症を発症、徐々に視力と視野の低下が進行する中、現在でも看護師業務を続けていらっしゃいます。業務を続けながら年に一回、できる業務、お手伝いがあればできる業務、できない業務を記載した状況報告書を作成し、病院スタッフと共有する工夫をしていらっしゃいます。病院の院長や事務長さんも、できないことではなく、何ができるのかを探ることが障がい者雇用であるとして、西川さんを全面的にサポートされているとのことでした。最後に、生徒から出た感想や質問にも丁寧にお答えいただきました。今回の講演が、生徒が今後働く上で自らの見え方を周囲の  
どう伝えていくかの参考になればと願っています。



☆講師、関係機関の了解を得て、当日の講演の様子を YouTube にて公開しています。右のQRコードより御覧いただけます。



### 進路講演会を聞いて

#### 専攻科理療科2年 生徒

この進路講演会で、私が一番印象に残ったのは、見えなくなってきたときに「なぜ、自分だけ？と爆発したこともあったけど、やっぱり自分から歩み寄っていくしかないという結論に到った。」という言葉でした。私は生まれた時から全盲だったものの、両親や母方の祖母も全盲なので、自分の障がいのことで周り比べて苦しい思いをしたことが、あまりありませんでした。

しかし、父方の祖母が住む福井に来て、自分以外が晴眼者という環境で、1年生のときは本当にストレスが多かったです。今でも課題があるので、そのストレスをどうやって消化し、生活していくかについてのお話がとても興味深かったです。これから社会に出て就職したら、もっともっとこのような悩みが増えると思います。そんなときに爆発することなく、西川さんのように自分から歩み寄っていける方法を模索したいと思いました。

#### 保健理療科3年 生徒

今年度の進路講演会には、最終学年で「就職が間近に迫っている！」という気持ちをもって参加しました。視覚障がいがありながら、様々な工夫により看護師という社会的責任が大きなお仕事をされている方の講演をお聞きして、視覚に障がいがあっても、しっかりと社会に出て働いていけるという事を知りましたが、それと同時に、社会に出ることの大変さにも気付かされました。

「自分が思うより現実は甘くない」

それが今回一番私の心に刻まれたことでした。正直、まだ完全に就職を意識できているとは言えませんが、今回の講演で直近に迫った就職に対する視界が随分クリアになりました。今後、今回の講演会で学んだ事はもちろん、今までの、そして残された盲学校生活で学べるもの全てを就職活動に生かし、社会人として厳しい現実に向かいたいと思います。



## 理療科 職場見学

9月28日、理療科職場見学として2件訪問しました。

1件目は、15年前の卒業生がヘルスキーパーとして勤務する「興和江守株式会社」。ヘルスキーパーとは、企業の福利厚生の一環で従業員の健康維持を目的に施術を行うあん摩マッサージ指圧師のことです。担当者の方からは、多くの従業員の健康を守る大きな戦力となっていること、従業員から自分でも気付かない症状を言い当ててもらえるので、それに注意しながら毎日元気に仕事ができているなどの感想が寄せられているとの話を伺いました。卒業生からは、現在の仕事内容だけでなく、在学時代の話やコロナ禍による影響など、参考になる多くの話を聞くことができました。

2件目は、将来介護系に就職した場合に必須となる介護用品専門の「ハシノメディカルショールーム」。実物を触りながら説明していただきました。歩行用杖や履き物、車椅子、押し車、電動ベッドなど、利用者が使いやすいよう工夫されていたり、安全面で配慮されている点などを確認したりしながら、見学を行いました。

### 【 生徒の感想 】

### 保健理療科2年 生徒

今回の見学で、ヘルスキーパーの会社での必要性を感じました。実際の利用者の声から、卒業生の方の知識と経験があるからですが、会社への貢献度が高いと感じました。また職場の同僚の方も一緒に良い職場にしようと思っていると感じました。このような企業が増えると、障がい者も健常者もより働きやすい社会になると思います。

### 保健理療科2年 生徒

興和江守さんで、ヘルスキーパーとして働く卒業生の方のお話を聞くことができ、大変勇気づけられました。在学当時、家庭の事情で学業がままならなかったり、あん摩実技が得意でなかったにもかかわらず、現在までの15年間立派に働き、社員の人たちに貢献されていることは本当にすごいと感じました。当時は本当に辛いこともあったのだろうと推察しますが、それを乗り越え、家族を支え続けてきた強さには驚くばかりです。私は記憶力も落ち、あん摩実技もあまり得意ではありませんが、困難に負けずに地道に、少しずつ歩み続ければ、道は開けるかも知れないと思うことができました。ありがとうございました。

## 進路学習会

8月27日（土）、保護者、生徒、教職員を対象に障害年金に関する進路学習会を実施しました。本学習会は、年度始めの進路希望調査にて保護者の方から寄せられた要望を受けて



企画させていただいたものです。講師は兵庫県在住の辰巳周平氏、障害年金を専門とする社会保険労務士で、全国での講演活動や学会等でシンポジストとして活躍されています。当日は「未来への選択肢を広げよう～適正な障害年金受給を目指して～」というテーマのもと、障害年金受給のための三つの要件（加入要件、保険料納付要件、障害状態要件）について、20歳前発症者を対象とした内容を中心にお話いただきました。御参加いただけなかった方、もう一度お聞きになりたい方に向けて、講師の了解を得て当日の講演内容を YouTube 公開しています。右のQRコードから是非御覧ください。

### 【 講師資料より（引用） 】

- ・ 障害年金の受給は原則20歳から可能
- ・ 障害年金は自ら請求しないともらえない
- ・ 障害認定基準を参考に自身の視力や視野に常に自覚的であること
- ・ 障害年金は保険制度であり、福祉制度とは一線を画する
- ・ 積極的に受給して自身の将来の選択肢を広げよう

### 【 参加者の感想 】

- ・ 初めて知ったことが多く、大変勉強になった。
- ・ 子どもが大きくなった時に、また聞きたい。
- ・ 詳しく手続きの方法や必要書類等について説明していただき、漠然とした不安が解消された。
- ・ 申請の流れがよく分かった。20歳を過ぎたら市町の国民年金課で申請するということを覚えておき、時期が来たら忘れずに申請したい。
- ・ 視力と視野は別物として障害認定されることが分かった。子どもに欠けている視野がありそうだと感じているため、検査を受けさせたい。





## 卒業生職場訪問

8月3日（水）、昨年度の卒業生2名の進路先を訪問し、職場や施設での様子を見学させていただきました。

理療科卒業生は、越前市中央図書館で本の貸出や返却、予約受付などの窓口業務、本棚の整理などを行っていました。パソコン操作や細かな書類の対応には、Windowsの拡大鏡やルーペを活用しているとのことでした。来館者も多く、忙しい業務の中で、職場の方との交流の時間はなかなか取れないそうですが、週二日の休みには、自分の趣味ややりたいことを楽しみ、生活は充実しているようでした。毎日の徒歩通勤で、健康的な体づくりができている印象を受けました。



普通科卒業生は、光道園鯖江事業所ライトワークセンターに入所し就労支援を受けながら、充実した生活を送っていました。作業は9時から15時まで、眼鏡枠の箱折りに取り組んでいました。慣れた手つきで複雑な箱を素早く折り畳み、生産数を日々更新していく卒業生に、職員の方からは作業の担い手として期待しているとの話が聞かれました。

休憩時間や作業がない日には趣味のピアノを弾いたり、体力づくりとしてエアロバイクに毎日20分乗ったりしているということでした。スケジュールはスマホを活用し、作業や食事の時間に遅れないように自分で管理していました。作業には目標をもって積極的に取り組み、山登りやキャンプなどのイベント的な余暇活動も楽しみ、趣味を広げながら楽しく生活しているようでした。作業の様子や日々の生活について、にこやかに語ってくれる表情や様子から、学校を卒業し新しい生活に次々とチャレンジしている頼もしさが感じられました。



卒業生の皆さん、コロナに負けず、頑張ってください！



## 社会人生活を始めて感じたこと

平成31年度 高等部普通科卒業生

私は5年前に本校普通科を卒業しました。この度は私の近況について、感じていることを踏まえてお伝えしたいと思います。私は今年の4月より、ヘルスキーパーとして働いています。ヘルスキーパーは、企業の中で社員の皆様にマッサージをするあん摩マッサージ指圧師、鍼灸師です。企業の中で社員の皆様の健康の維持・増進の一部を担う、非常にやりがいのある仕事だと考えています。これまでアルバイトなどをしたことがなかったため、この度の就職が初めての働く経験となります。仕事を始めてまだ数か月ですが、働く中で大切と感じたことがあります。それは、コミュニケーションです。技術や知識があることは大切ですし、働く上ではもちろん必要です。ですが、それらが充実しているだけでは、円滑に業務を行うことは難しいと思います。同じ職場の方と仕事に関しては当然ですが、日々の出来事についてなどの話もします。互いのことを知り話しやすい関係を築くことで、仕事における相談や問題への対処などを迅速に行うことができると感じています。私は初対面の方とのコミュニケーションが特に苦手なため、最初は不安もありました。何を話すと良いのか分からないことが多いため、ニュースなどからおもしろそうな話題を見つけてきて話のきっかけを作るように意識してみると、以前よりも会話ができるようになったと感じています。

暮らす中で大変なことは、仕事と生活の両立です。どちらか一方であれば、成立させることはまだできると思いますが、両方となると想像していたよりも難しかったです。暮らしは仕事を中心となっていますが、その合間に生活に必要な手続きや身の周りの管理をする必要があり、仕事で精一杯な時はおろそかになってしまいやすいです。その都度、物事を済ませています。今後は時間を見つけて予定を組んで効率よく物事を済ませたいと考えています。

私は大学への進学をきっかけに福井県を離れ、関東で生活を始めました。良かったと感じている点としては、自立できたことです。私は頼れる人がいると、任せてしまう傾向があります。しかし、地元を離れば一人で全て行うため、頼りたいと思っても難しいです。そのような環境に身を置いたことで、以前よりも自立した生活ができていると感じています。まだまだ、完璧に何でもできるようになった訳ではありませんが、地元を離れたことで成長することができたと思っています。以上、当然なことばかりを挙げましたが、それが一番難しいと感じています。読んでいただいた皆様のためになることがあれば、幸いです。

## 盲学校の理解と連携を深めるために

## 進路指導部長

進路指導部では、本校についての理解を深めてもらい、生徒の就労につながる連携を図るために、関係機関を訪問し啓発活動を行っています。夏季休業中には眼科医を中心に、地域のハローワークや福祉課、企業へ出向き、本校の概要と理療科の現状、生徒募集について詳しく説明を行い、情報の共有を図りました。どの関係機関も詳しい情報を求めて熱心に耳を傾けてくださり、盲学校や生徒の実態について正しい理解を得ることができました。また、視覚支援グッズの最新情報等について関心を示されたり、ヘルスキーパー設置への提案や本校見学の要望などもお聞きしたりでき、地域における視覚障がい支援機関である本校の存在の重要性を肌で感じ取ることができました。今後も、個々の状態に応じた細やかな学習・生活支援という本校の強みをアピールしつつ、就職先の確保・進路開拓に向けて、関係機関との広く深い連携を図り啓発を進めていきます。

## 学校見学会

6月17日、18日、盲学校に関心のある方、就学を希望されている方々を対象に学校見学会を開催し、56名の参加がありました。初めて本校を訪れる方が多く、校舎の広さと整った学習環境に驚かれ、また丁寧できめ細やかな配慮のある授業の素晴らしさについての感想が多く聞かれました。視覚障がい教育や支援内容を実際に見て理解していただくことの意義は大きく、各園や学校、職場の環境を整えてもらえるきっかけとなります。今後は、さらに地域の企業の方々にも参加を呼び掛け、進路開拓につなげたいと考えます。



## ふくい障がい者ワークフェアに参加

9月3日、4日、福井市のショッピングシティベルにてふくい障がい者ワークフェア（福井市商工労働部主催）が開催されました。本校からは、各学部の教育活動や相談支援活動等を紹介したポスターを掲示し、来館者の方々に見ていただきました。

